入選（低学年の部）

ぼくの黄色いかさ

茨城県　ひたちなか市立市毛小学校　二年
鈴木（すずき）　大輔（だいすけ）

ぼくは、一学きに黄色いかさを三本こわした。あさ学校にもって行く時は、ぶじだったのに、かえりになるとこわれてしまう。

一本目は、はたけにかさをさしてぬこうとしたら、もつところがおれてしまった。二本目は、どうろのそっこうのふたのあなに、かさをさしこんだらぬけなくなって、ぬこうとしたら、先っぽがおれてしまった。三本目は、かさをひきずって歩いていたら、かさの先っぽがおれて、あながあいてしまった。

「またこわしてきたの。つぎこわしたら、ようちえんの時につかっていた青いかさで学校に行きなさい。夏休みになるまで黄色いかさは買いません。」

とおかあさんにおこられた。ぼくは、「どうしよう。青いかさなんて、よけい目立つからはずかしい。」と思った。

しばらくして雨がふった。おかあさんがよういしてくれた、四本目のかさをさして学校に行った。かえりは雨がやんでいた。ぼくは、「よし。こわさないようにもってかえろう。」と思った。かえっていると中、いろいろ気になって、かさでやりたくなったけどがまんした。この四本目のかさが、ぼくにとってさいごのかさだからだ。「これがこわれたら青になってしまう。」と思いながら、大せつにもちかえった。ぶじにいえについた。

でも、ぼくは知っている。おかあさんが新しい黄色いかさを買って、おし入れの中にこっそりかくしていることを。あの時すごくおこられたけど、おかあさんはちゃんとかさをよういしてくれていた。いつもおこってばかりいるけど、ぼくがこまっている時にたすけてくれる。そんなおかあさんが大すきです。おかあさんいつもありがとう。